

横井小楠 — その業績と生涯 —



小楠は吉田松陰^{しょういん}*と熊本で親しく交際しています。松陰は一体どういう人だったのでしょうか。小楠と松陰の共通点は何だったのでしょうか。また、二人を結びつけたのは誰だったのでしょうか。

8 吉田松陰、小楠堂訪問

嘉永6年(1853)10月、吉田松陰は、長崎港に停泊中のロシアの軍艦に搭乗するため、長崎に向かいますが、その途中、熊本の小楠堂に立ち寄り、3日間、小楠と親しく話し合っています。松陰24歳、小楠45歳の時です。

小楠は、親交を結んでいた宮部鼎蔵^{ていぞう}*から、松陰は萩藩(現山口県)の藩士で、至誠(真心)をもって物事にあたり、また、実学を重んじて全体を理解する人だと聞いていて、諸国巡遊^{しよんくゆう}(嘉永4年に約半年間、小楠は日本国内21藩を巡り、財政の様子などを調べ、有名人と会見している)の際に萩を訪れましたが、松陰と面会することができませんでした。そこで、今度の松陰との出会いを大変喜び、ある1日は終日対話をしています。松陰は、その後、長崎に行きますが、軍艦はすでに退去したあとで、海外への渡航は果たせませんでした。

帰国後、小楠宛に出した手紙の中で、松陰は「小楠先生に萩に来ていただいて、藩士たちに天下の情勢とその対処については是非ご指導願います」と述べています。実現はしませんでした。松陰が小楠の学問や考え方を深く理解し、政治的实践へ大きな期待をしていたことがわかります。

安政元年(1854)正月、ペリー^{ひき}*がアメリカの軍艦を率いて再び来日した時、松陰は、再度海外渡航を計画、下田(現静岡県)でアメリカ



▲吉田松陰(山口県文書館提供)



▲宮部鼎蔵(御船町提供)

の艦船に乗ろうとして失敗し自首します。そのため萩藩の牢屋に入れられ、後に実家に幽閉(閉じ込められる)されましたが、同4年(1857)に「松下村塾」^{しょうか んじゆく}*を開き、高杉晋作*や伊藤博文*など多くの人たちを育てました。しかし、同5年(1858)、老中(幕府の最高職)襲撃を計画した疑いで再び牢屋に入れられ、同6年(1859)、江戸に送られます。松陰は、取調べ中にも幕府の政策を批判したため、処刑されました。30歳の若さでした。

※吉田松陰(1830~1859) … 萩藩の教育者、山鹿流兵学師範(山鹿素行が考え出した戦の勝ち方を教える先生)。

※宮部鼎蔵(1820~1864) … 肥後藩の山鹿流兵学師範、尊王攘夷者で肥後勤王党のリーダー・上益城郡御船町出身。

※ペリー(1794~1858) … 米国東インド艦隊長官・日本に2度来航。

※松下村塾 … 萩にあった私塾・松陰が叔父の後を継いで塾長となる。

※高杉晋作(1839~1867) … 萩藩士・尊王攘夷者、奇兵隊を創設。

※伊藤博文(1841~1909) … 萩藩出身・政治家・初代総理大臣。

このコーナーは、菅 秀隆^{すが ひでたか}さん(元横井小楠記念館長)が執筆しています。